



生きがい

「もう生きたってしょうがない。足腰も弱ったし、娘にも迷惑かけてるもの」

と長生きされることを嘆く患者さんは少なからずいらつしゃいます。こり、社会活動に参画しないことはこの方にとつて、生きがいは何かという問いに対しての嘆きを意味しています。

内閣府の統計によれば、65歳と85歳以上の方々では高齢になるほど生きがいは少なくなるそうです。また、性別でいえば特に女性に変化が出やすい、親しい人や家族との会話が少なくなった



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
 総合内科専門医・循環器内科医
 ・日本循環器学会専門医
 ・日本内科学会認定医
 ・認知症専門医
 ・認知症サポート医

えは特に女性に変化が出やすい、親しい人や家族との会話が少なくなった

な方なら、デイサービスや社会福祉協議会が設けている体操や教室、各種セミナーなどに行くことをお勧めします。ただ、なかなかその一歩が出ない、出向こうとしない

私が目頃診療をしている患者さんには、「この方には何ができるのか」なコミュニケーションを醸成することが大切だと思っています。

【まつばらホームクリニック】
 ☎ 042-439-1250
 matsubarahomeclinic@gmail.com
 西東京市東町 4-14-18-2F
 ■電話対応：午前 9:00～午後 6:00
 ■定休日：土日（祝日は診療）
 ■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部
 まつばらホームクリニック 検索